JAびばい広報誌 キャッチボール

Catch Ball

2020 June 6
Vol.884

CONTENTS

【特集】ＪＡグループ北海道座談会　下 … ３～５
●田植えスタートほか…１　●女性部市民支援活動・理事会だより…２

5/9 ビート播種作業の様子（中村：佐藤誠吾氏）

発行／美唄市農業協同組合 営農推進課 〒072-0001美唄市大通東1条北1丁目2-1
●TEL (0126) 63-2161●FAX (0126) 63-4600　ホームページ http://www.ja-bibai.or.jp
【美唄市農業協同組合 営農推進課】facebook

茶志内町２区の阿部頼義さん
ＪＡ管内のトップを切って田植えスタート

美唄市のトップを切って5月12日、茶志内2区の阿部頼義さんが田植えを始め、昨年と同日の開始となった。

阿部さんは「曇天や低温で予定より育苗は遅れたが、とても良い苗に仕上がった」とし「今年もおいしい米ができるよう頑張りたい」と意欲をみせた。

阿部さんは水田17ヘクタール全てに北海道を代表する良食味米「おぼろづき」を作付する稲作生産者。２００６年の全国食味分析鑑定コンクールにおいて北海道米で初めてとなる総合部門「金賞」を受賞している。

この日は4月23日に種まきをしたマットの密苗3ヘクタール分を植えた。

営農部の西川賢部長は「育苗期間中の低温もあり、苗の生育を心配していたが、順調に田植えが行われ安心した。阿部さんが近年の美唄の気象条件を考慮し密苗に取り組んだことから、省力化も含め今後の水稲生産面積の維持・拡大に繋がれば」と話した。

今年ＪＡの水稲作付面積は2，179ヘクタール、うち主食用米作付面積は1，750ヘクタール、主食用米の販売量は約12万2千俵（60キロ／俵）を見込んでいる。

立茎栽培の準備に向けて

美唄市グリーンアスパラ生産組合は5月7日、ＪＡびばい農場で現地講習会を開催し、組合員18名が参加した。

講師は営農推進課の北藤雪子職員が務め、立茎栽培に向けた準備作業の確認などを行った。また同農場で比較試験をしている各種アスパラの生育経過やその特徴についても説明があった。

今年ＪＡのアスパラ作付面積は約20ヘクタールで、販売量は58トンを見込んでいる。

講習会の様子

牡羊座

コミュニケーションが活発化する中、行き違いも増えそう。約束は時間や待ち合わせ場所などきちんと決めて

《モナ・カサンドラ》

6月 今月のあなたの運勢

ぎゅーっと心をこめて

女性部は5月12日、Aコープびばいコア店で新型コロナウイルスの影響で外出などの自粛に励む美唄市民へ、米や牛乳をプレゼントする市民支援活動を実施した。

女性部では新型コロナの影響により今年度の事業運営が計画通り実施できない状況となっている。しかし緊急事態宣言の延長により長期化する自粛生活で疲弊する市民のためにできることはないかと立ち上がった。

店内の混雑時を避けた13時から短時間で、アルコール消毒液の設置やマスクの着用など感染防止対策を徹底して実施。この日2，000円以上商品を購入したレシートを持参した市民を対象に、先着順で美唄産おぼろづき1袋1㌔または牛乳1本1㍑をプレゼントした。

地産地消はもちろんのこと、牛乳の消費減少が深刻となっていることもあり、米と牛乳をプレゼントに選んだ。

谷村清美部長は「ささやかですがこの牛乳とお米がみなさんの心の栄養になればうれしい」と話した。

市民にプレゼントを手渡す谷村部長（右）

理事会だより

定例理事会　4月24日

《報告》

①令和2年3月末現在、業務財務報告
②常務委員会報告
③農家経済改善対策委員会報告
④JAびばい農場活用推進委員会報告
⑤令和2年度クミカン供給限度額および貸越極度額の設定報告
⑥令和2年度以降の米・水田農業政策に関する組織討議概要報告
⑦通常総会等に関する書面による質問・意見について
⑧職員人事動静報告
⑨その他

《議案》

①令和元年度決算監査意見に対する回答について
②理事の退職慰労金の支給について
③大口貸出先に対する信用供与等の決定について
④令和2年度理事に対するクミカン供給限度額および貸越極度額の設定について
⑤特定組合員の指定・解除並びに指定区分変更について
⑥令和2年度特定組合員クミカン収支計画並びにクミカン供給限度額および貸越極度額の設定について
⑦固定資産の取得について
⑧令和2年度リース物件の取得について
⑨令和元年産規格外小麦の共計精算について
⑩令和2年産園芸品目の共同計算に係る取扱細則について
⑪美唄市土地改良センター出向職員に対する協定書の締結について
⑫その他

…全議案承認

《その他報告事項》

①令和2年度「図上確認」結果報告
②水稲生産拡大に向けた省力化技術モデル事業申請状況報告
③令和元年度「出向く事業（絆）体制」活動実績報告
④経済事業業況報告
⑤その他

双子座

主役運が巡ってきています。身だしなみはおしゃれを意識して流行のアイテムをプラス。うれしい出来事あり

牡牛座

楽しい話題が多く心弾みそう。買い物は念入りな下調べで満足度が大幅アップ。お得情報は身近なところに

ＪＡグループ北海道座談会　持続可能なＪＡの事業運営を考える　下

【出席者】
小林　国之
　北海道大学大学院農学研究院准教授
柴田　倫宏
　ＪＡ北海道中央会専務理事
宮本　英靖
　ＪＡピンネ代表理事組合長
佐藤　正昭
　ＪＡこしみず代表理事組合長

出典：『北海協同組合通信 2020 新春特集号』
「持続可能なＪＡの事業運営」北海道協同組合通信社

労働力確保や施設整備で支援

小林　農協の事業運営について、経営的な見通しはなかなか厳しいが、組合員と向き合い、結集力を高めることで事業を持続させていくという話があった。実際に農協で力を入れている取り組みをご紹介いただきたい。

佐藤　大切なのは生産力をきちんと上げることだが、うちも農家戸数の減少に伴って1戸当たりの耕作面積が増えている。そうなると、手間がかかる野菜などが減り、だんだん畑作3品中心の経営に戻っていってしまう。これでは輪作の面でもよくない。一番の問題である労働力不足に対応するため、3年前に農作業支援事業を立ち上げた。今は外国人技能実習生と日本人合わせて15人おり、ニーズに応じて労働力の不足している農家などが活用している。

　ふたつめは耕畜連携で、うちは畜産が販売高の2割ほどしかないが、条件が悪い農地を吸収してもらったり、安定的に堆肥を調達する上でも、畜産振興は地域にとって重要な課題だ。そこを重点的にやろうということで、酪農で数千トン規模の牛舎をつくる構想を立ててからもう5年もたつ。畑作地帯だからなかなか場所がない。そのため、今は離農する酪農家の牛舎を農協が借り上げ、そこからスタートしようと考えている。まずは生産力を維持することと、地域から人を減らさないこと。そのためにどんな仕組みをつくるか。黙っていては衰退の道しかないが、いろいろなことをやっていれば自然と人は集まってくるものだ。

　また、畑作関係では新たな輪作体系の確立と併せて「畑作対策基金」の創設を検討している。

宮本　われわれのところは農地の8割が水田であり、中心となる米の生産性を高め、それをいかに集荷して有利販売していくかが農協の使命と考えている。1戸当たりの経営面積は平均16ヘクタールと、離農に伴ってこの10年間で2倍になっている。その中で米の施設については、行政の支援も受けながら新十津川町と浦臼町に1カ所ずつ、1万トンの米ばら貯蔵施設があるが、3つめの1万トンクラスを半乾ばら施設で整備したいという構想を持っている。現状の施設規模ではだんだん足りなくなってきており、次の策を打たなければ組合員の規模拡大に対応できない。遊休農地はなく、これからも1戸当たりの面積は増えていくだろう。農協の使命を果たす上でまずは施設が必要だと考えている。

　もうひとつは、国のスマート農業実証プロジェクトの個人経営型に新十津川町の個人の農園が採用され、無人化・省力化に向けた機械導入に取り組んでいる。すでにドローンや田植え機については、行政と連携して助成金対応の中で導入を進めており、こうしたスマート農業にも地域を挙げて取り組んでいきたい。これらハード・ソフトの両面から、地域の作付面積を維持し、生産力を高めていくことにより、それが総合事業の中で、金融や共済、経済事業にもつながっていくという考えだ。

　また、地方の農協は、行政や地域の皆さんと一体の組織、社会のライフライン的な組織と位置付けられている。そのため、町の政策と共同で事業展開をしたり、逆にわれわれの取り組みに行政に入っていただくなど、そこは相互に参画していかなければならないと思っている。今も要請があれば、農協事業とはまったく関係がなくても、組織体をつくって行政と一緒にやっているし、そうすることによって、財政面を含め、農協の事業に対して行政から支援をいただける部分もある。

生産性を上げるために必要な経費

小林　農協としてやらなければいけないことが増える一方で、経営の効率化も進めなければならない。これまで北海道の農協は、例えば生活店舗を外部化したり、人件費などの事業管理費を削減しながら、何とか経営の合理化を進めてきたと思うが、今後を考えると、事業の外出しもある程度終わり、人件費の削減も限界にきている。加えて国からは「働き方改革」が求められており、これからどう効率を上げていくのかというところも課題。実際問題としてこれ以上、人を減らすわけにはいかないだろう。

宮本　逆に増やさざるを得ないのが現状で、すでに米の調製施設などは、働き方改革に対応するため、2班から3班体制に変更しており、青年部の皆さんに手伝ってもらって何とか人手を確保している状況だ。

　加えて事業管理費も上がる。特に大きいのは管理部門のチェック機能で、すべてにおいてダブルチェックが必要、ひとりで対応してはいけない、行動するときも2～3人で動くようにとの監査指導が入っており、これによる人件費の上昇が大きい。

佐藤　事業管理費は間違いなく上がる。下がることはないだろう。特に、農作業支援事業などをやると農協全体で抱えるコストは上がっていく。加えて一番困っていることは、地方にはなかなか良い人材が集まりにくくなっていること。大学と連携してインターンシップをやりながら

獅子座
予定通りに進まなくても慌てないで。スケジュールを調整すれば何とかなります。笑顔が幸運を招く鍵

蟹座
ほっと一息つける穏やかな運気。趣味やティータイムを楽しんで。感性も豊かに。美術や音楽鑑賞にも最適

人材確保に取り組んでいるが、そこが難しくなってきている。女性職員もかつては8割が準職員だったが、もう正職員でなければ定着は望めない。社会環境の変化に合わせて、資格試験なども活用しながら、段階的に正職員にしていかなければだめだろう。

宮本　うちも準職で採用しても、初級の資格を取れば3年後には正職員の道を約束している。皆さん試験に真剣に取り組んでくれており、正職員になった後は管理部門以外も経験させるよう人事も合わせて対応している。

小林　事業管理費の上昇は避けられない状況だが、こしみずの農作業支援事業などはまさに農家をサポートする素晴らしい取り組みだ。今後、部門としての収益性についてはどう考えているのか。

佐藤　そこが問題だ。派遣先の農家個々からはそれぞれいただくが、支援事業はこれから先、農協の基幹的な事業になると思う。そこは将来的に営農指導の対価をどうするのかということを含めて、考えていく必要がある。同時に、町の基幹産業を育てるためには行政の支援もいただきたい。酪農の法人化の話も、町と農協が出資する形で、しっかり経営管理しながら進めていきたいと考えている。そこで掛かるコストについても内部でしっかり議論していかなければならない。生産性を上げるために必要な経費だということを、組合員の皆さんと共有しなければできる話ではない。今こそ協同組合として、組合員にも意識変革を求めていかなければだめだろう。

小林　農協の仕事は農産物の販売など目に見える事業だけでなく、地域に関わるさまざまなことがある。それが経費でいうと事業管理費として出てくるわけだが、今後はどこかの段階で、手数料や賦課金のあり方を含め、農協の営農指導事業とは何かという話を整理して、個々の農協でどこまでやるのか、それをやるためにはどれだけコストがかかるのか、ひとつひとつ議論していくことも必要になってくるだろう。

宮本　実は、うちは2008年まで営農賦課金をもらっていなかった。旧新十津川農協は賦課金がなかったので、98年の3農協合併の折に、合併しても賦課金はもらわず、そのため営農指導にかかる資金は総合事業の中でやりくりしていたが、営農渉外課を設けたのをきっかけに賦課金をもらうことにした。水準は空知管内の平均で組合員1人当たり1万円、水田は10㌃当たり200円で、6万円が上限。これについては組合員から大きな反対もなく理解いただくことができた。

佐藤　うちも賦課金はもらっているが、施設を建てるときに出資金はもらわずにやってきた。農協経営の中でしっかり内部留保し、自分たちの努力でやるという方針だったから。ただし、これからはそうは言っていられない時期がくると思う。これから考えられるのは、手数料そのものを上げるのは無理だと思うが、コストとして掛かるものはいただくという形だろう。

　一方、もらうばかりではなく、うちは事業分量配当で毎年約1億円を組合員に戻している。300戸強だから1戸平均30万円ほどだが、それを経営主の退職金として積んでいる。10年たてば300万円、20年たてば600万円になる。農家には退職金制度がないので、農家の経営管理のひとつとして、そういう仕組みも考えておかなければならない。税金対策も同じで、相続や贈与税など総合的な税対策となるとあまり準備していない人も多く、農協がサポートしていかなければ。農家の経営を守るためにはそういう仕組みも必要だし、農協の経営にとっても重要になっている。

柴田　今回の事業基盤に関する検討に関しては、農水省も全国の農協に対し、営農指導を含めた経済事業を黒字化するよう指導しているが、最近は赤字だからすべてだめだというのではなく、農協が総合事業をやっていく中で、全体としてコントロールできているのであれば問題ないのではないか、という言い方に変わってきている。経済事業は黒字にしてほしいという本来の思いはありつつも、例えば都市型農協などであれば、黒字までいかなくても賦課金をもらうことで「きちんとコントロールできている」と言えるのなら、外からいろいろ言う必要はないのではないかと。当然、コントロールできていないところに対しては厳しい対応になるが、農水省内でも少し流れが変わってきたように感じる。われわれとしてもそれに沿って取り組んでいきたい。

　その中で金融事業をめぐる環境が厳しいというのは共通した課題であり、この先も持続可能な経営基盤を確立する上で、それぞれの農協が自分たちの強みや弱みを考えて取り組んでいくということだと思う。奨励金など環境の変化に応じて各農協で毎年シミュレーションを繰り返しながら、中央会もそれを共有し、収支の改善見通しや安定的な収支を確保するためにはどうあるべきかなど、その農協に合わせたお手伝いをしてきたいと考えている。

　ただし、この間、農協改革などを通じてさまざまなことがあったが、農協に対する社会の意識も変わりつつあるのではないか。江藤農水大臣の就任あいさつでも、これだけ全国で災害が毎年ある中で、地域のJAのあり方については、本来の経済事業だけでなく、地域への貢献などをきちんと評価しなければだめだと発言していたし、併せて家族経営の位置づけをどうするのかという問題提起もしていた。時の大臣があいう発言をしたのは重要なこと。潮目が変わってきたのではないかと感じている。

佐藤　農水省も農協改革の中で農協に対していろいろと厳しいことをやってきたが、中身をよく調べてみると、逆に協同組合が地域でどういうことをやっていたのか、見えてきたのではないか。私自身、自分たちが進んでいる道は間違いじゃない、正しかったんだと改めて感じている。

小林　これからは「正しかった」ということをもっと声に出し、内外にわかりやすく伝えていくことが重要だろう。全国の農協でも組合員との対話として職員訪問などを実施しているところがあるが、ピンネの営農渉外課やこしみずの農作業支援事業などの取り組みは全国でも驚かれる事例だと思う。中央会と連携し、北海道からもぜひいろいろな形で発信していただきたい。小清水では農作業支援事

天秤座
梅雨の晴れ間のような爽やかな運気です。高めの目標を設定して頑張れば、うれしい成果が。説明は丁寧に

乙女座
問題多発の気配。周囲の言葉に耳を傾け、改善策を講じましょう。粘り強さを発揮すれば結果は付いてきます

業に人を呼ぶためラジオ番組などの媒体もどんどん活用して発信している。

佐藤　やるほうは大変だが、ラジオを聞いて実際に人が来てくれれば達成感があり、また頑張ろうとなる。その積み重ねが大事だと思う。

農作業支援事業に関しても、町内で廃校になった高校の跡地を活用して拠点施設をつくろうと今動いているが、その構想を上げてきたのは職員。かなり大きな施設だし、ランニングコストもかかる。これは大変だと思ったが、一緒になってやっていくと形ができてくる。やらなければ何も生まれないが、やることによって何かが生まれる。衰退よりは何かすること。それを職員が自分たちで考えて提案してきたところに心を打たれた。総代会で反対されればできないが、農協はそういう組織であり、組合員が受け止めることも大事だと思う。

柴田　職員の思いがそのような形で積み上がってくると、今度は理事者も組合員の皆さんに理解してもらおうと頑張る。そうしたひとつひとつの積み上げが、協同組合運動の原点という気がする。

事業間連携など結び付き柔軟に

小林　持続可能なJAのあり方ということで私が感じているのは、今は北海道に108JAがあり、これから少し合併が進む可能性はあると思うが、例えば事業間連携など、JA同士がもっと有機的に結び付くことによって、コスト面では事業管理費を削減したり、販売面ではより機敏な対応を可能にするといったことも求められていくのではないか。

佐藤　オホーツク管内は14農協あり、うちを含めて合併はそれほど進んでいないが、これからは管内14農協が連携し、共通の課題を持ち寄りながら、将来ビジョンをつくっていくことが大事だと思う。その中で事業間連携に関して言えば、うちにはオホーツク農協連がある。小さな農協は人材確保が大変なので、各農協ではできないような事業の中身を精査し、それに対応できる人材をオホーツク農協連に集め、いつでも相談できるような組織にしていきたいと考えている。全道的な課題には中央会が対応してくれるが、管内特有の悩みというのもある。農協の駆け込み寺ではないが、オホーツク農協連を核にして、単体の農協事業のことだけではなく、組織全体で地域を守り、共有のオホーツクブランドを大切に育てていくという、もっと広いところに目を向けていかなければだめだと思う。また、そうした相互的な取り組みを進めることによって、それを見ている組合員にも、協同組合やJAグループの大切さが自然と伝わっていくのではないかと考えている。

宮本　うちも事業連携に向けた新たな取り組みとして、中空知地域のJAたきかわ、JA新すながわ、ピンネの3農協の間で選果施設の共同利用を検討してきた。青果物などの選果施設は各農協で持っているが、水田の規模拡大に伴い、規模が小さくなってきている。そのため3農協で事業連携を組み、共通する品目の選果施設を共有化できないかということを5年前に提案し、最初に花きの集荷・選果施設で実現することができた。JA新すながわの花をうちの施設で選別し、産地もしっかり明記しながら出荷している。また、たまねぎはJA新すながわが広域の事業連携で中心的な役割を担っており、この部分でも何とか中空知3農協で事業連携が組めないかという提案をしている。このほか、アスパラ、いんげんなども、それぞれの農協で小規模な施設を持っているが、地域で連携が取れないかと提案している。時間はかかるかもしれないが、規模が縮小して施設を維持できなくなる前に、何とか2つ、3つの事業連携を形にしていきたいと思っている。組合員のためにも、ぜひ進めていきたい。

佐藤　施設をまとめるのは大変だ。オホーツクでもビーンズファクトリーをつくったが、あれは実現するまでに5年ぐらいかかった。管内のでん粉工場の再編も同じで、ようやくひとつ区切りがつくが、これは10年かかった。一度まとまれば行政などの支援も得られるが、やはりわが町、わが農協という思いがあるから時間がかかる。しかし、いよいよひどくなってからでは遅い。先の話をしていかなければ。

柴田　厳しくならないとまとまっていかないというのはまったくそのとおりで、ピンチをチャンスとして捉えないと、事業間連携などの話は出てこないと思う。例えば農協合併についても、今までのようにどんどん進めればいいとは思わないし、皆さんが考えた結果が単独での総合事業体だとすれば、その体制を維持していくためにできることは何か、各農協や地域で考える土壌が出来つつあるというのは、ある意味チャンスだと感じる。その中には、いろいろな事業間連携もあれば、施設の効率利用もある。それをどの範囲でやるのか。地域や事業内容によって、オホーツクのような地区単位でやるところもあれば、中空知のような農協単位でやれるものもある。そういう皆さんの協議の場に、われわれ中央会やホクレン、信連など連合会が入りながら、JAグループの役割を北海道全体で考え直し、トータルコストを圧縮していけるよう、中央会としてもできる限りのことをしていきたい。

また、全国的に持続可能な事業運営のあり方ということで出てきているのは、金融店舗やATMの集約化などを通じて浮いた人員を対話型の業務に回すというのが大きな柱になっている。そう考えると、ピンネの営農渉外課などはまさにそれだし、こしみずの農作業支援事業を含め、全国の動きを先取りした取り組みが道内で動いていると言える。北海道からもこうした事例を積み上げ、全国に発信していく必要があるだろう。

小林　これまで組織基盤の強化については、最初に合併目標を掲げ、そこに向かって北海道もやってきたが、今は各JAの考え方を最優先し、単独でいくのであれば支援していきましょうというスタンスに変わっている。そこをこれからも大事にしながら、農協のあり方をもう少し広い視野から柔軟に考えていければ、JAというのは十分に持続可能な存在であり、再評価されてきている部分もある。これまでやってきたことに自信を持って取り組みつつ、まずは組合員や地域の人たちに理解してもらいながら、外にも発信していただきたい。今日はありがとうございました。

（おわり）

射手座

運勢は吉凶混合。丸ごとうまくはいかないので良い方は伸ばし、攻められたら防戦を。めりはりが大事

蠍座

上昇運です。計画推進に力を入れればゴールは間近。状況を再分析しての見直しは吉と出ます。連絡は早めに

ピパラのお料理レシピ

～大豆ハンバーグ～

◇材料

○水煮大豆　４００g　○玉ネギ　中玉1個　○大葉、大根おろし（お好みで）　○サラダ油（またはバター）
○ポン酢　☆卵　1個　☆パン粉　大さじ４　☆片栗粉　大さじ４　☆塩　小さじ２　☆コショウ　少々

作り方

①玉ネギはみじん切りにして、あればバターでしんなりするまで炒め、冷ます
②大豆は圧力鍋等で柔らかく煮る（注！煮汁は捨てない）
③煮た大豆に煮汁を入れて、フードプロセッサーかミキサーでペースト状にする
④③に炒めた玉ネギと☆の材料を入れ、こねる
⑤お好みの大きさにして、サラダ油をひいたフライパンでこんがりと焼く
⑥焼き上がった大豆ハンバーグに刻んだ大葉と大根おろしを添え、ポン酢で食べる

《レシピ提供》
女性部「生活作品展　食の部」
山形支部考案

ピパラMEMO
お好みで、冷蔵庫の中の野菜や挽き肉を加えても良い。ケチャップやソースでも合いますヨ。

こよみ・行事

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

１９日　○企画会議
２６日　○定例理事会

クールビズの実施について

6月1日～9月30日

上記の期間でクールビズを実施しております。
ご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します。

販売部より お知らせ

販売部各課の担当品目が変更になりました！

４月の機構改革により、販売部各課の担当品目が見直されました。当面はご迷惑をおかけすることがあると思いますが、販売部一丸となって努力して参りますので、ご対応の程よろしくお願いいたします。

米　麦　課
担当品目：米・麦
担当施設：らいす工房

販売部は販売を中心に担当します！
技術指導は営農推進課となります！

農産園芸課
担当品目：野菜・花き・果樹・てん菜・大豆・なたね・そば・畜産
担当施設：まめ工房・選果場・集荷場・苗工房

水瓶座
パワフルに動き回れる好調運。優先順位を考えて効率良く動きましょう。見晴らしの良い開けた場所にツキ

山羊座
運勢は次第に荒れ模様に。情報はまず出どころを確かめて。迷ったときにはパートナーに判断を任せるのが良さそう

ＪＡグループ通信

発信元：JAグループ北海道第46号

ＪＡ北海道中央会

ＪＡグループ北海道では、新型コロナウイルスの影響による、学校給食の停止及び卒業式などイベントの自粛に伴い、ＪＡグループ北海道役職員はもちろん、同じ協同組合であるぎょれんやコープさっぽろ等にも協力頂き、牛乳の消費拡大を行った他、花きについては、北農ビルにて国産花きの販売会を７月末まで、毎週金曜日に開催をしています。

また、感染が疑われる方々などの相談対応にご尽力されている道内保健所の職員皆様の免疫力を高めて頂きたく、４月(計４回)に牛乳乳製品の無償提供行っております。新型コロナウイルスにより、行動が制限され体や心にゆとりが無くなってきていると思います。このような時だからこそ、家に花を飾り気持ちを明るく、国産の農畜産物をしっかり食べ、新型コロナウイルスに打ち勝ちましょう！

ホクレン

ホクレンは３月31日、演劇ユニット「TEAM NACS」リーダーの森崎博之さんの「ホクレンアンバサダー」就任会見と、2020年度女子陸上競技部の新体制記者発表を、ホクレンビルでそれぞれ開きました。森崎アンバサダーは、「拓くぞ！未来」プロジェクトを通じ、北海道農業の魅力を広く発信予定。この日はその初仕事として、新人の保坂野恋花選手を加えた女子陸上チームメンバーたちを「北海道農業のため、ともに頑張ろう」と激励しました。

ＪＡ北海道信連

2019年12月、全国各地のＪＡバンクの利用者が通帳代わりに利用できるサービスとして、スマートフォンアプリ「ＪＡバンクアプリ」の提供を開始しました。

本アプリを利用して、口座残高や入出金明細をスマートフォンで確認することができます。

ＪＡバンクのキャッシュカードをお持ちの個人のお客様であれば、アプリをダウンロードして簡単な初期登録で、誰でも無料で利用することができます。

ＪＡ北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年３回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。

ＪＡ共済連北海道

この４月より、生活習慣病になった時の備えとして「特定重度疾病共済（そなエール）」が新たにラインナップされました。ＪＡ共済では資料請求キャンペーンを実施しており、キャンペーン期間中に資料請求をいただいた方にもれなくプレゼントをご用意しております。

キャンペーンの応募期間は令和３年３月10日までですが４期に分かれております。

この機会に、ＪＡ共済のホームページにアクセスいただけますようお待ちしております！

（※上記の写真は第１期の賞品です。第２期以降の賞品については変更となる場合がございます。）

共済３Ｑ訪問推進

に職員が伺います！

6月8日（月）～19日（金）

日頃より当組合事業につきまして特段のご理解・ご協力を賜り、また共済事業をご利用いただき誠にありがとうございます。

例年実施しております【共済３Ｑ訪問推進】ですが、上記の日程でみなさんのところへ推進に伺いますので、よろしくお願いいたします。

※新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の影響により訪問日程が変更になる場合があります。ご了承ください。

お問い合せはコチラ
JAびばい
共済推進課　TEL 63-2164

農業用 古ビニール・ポリ類回収

農村環境美化運動

回収日程の延期について

例年６月に実施している古ビニール・ポリ類の回収ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、回収日程を延期とさせていただきます。また感染拡大の状況によっては中止も検討しておりますのでご了承頂きますようお願い申し上げます。

なお、新たな回収日程については決定次第ご連絡いたします。みなさまご協力のほどよろしくお願いいたします。

お問い合せ先　JAびばい　営農推進課（担当：安藤）TEL 63-2165

モナ・カサンドラ【プロフィール】 占いを学術的に解析する「ルネ・ヴァン・ダール研究所」の研究生となり、占星学のロジックを徹底的に解読・探求。コンピュータによるホロスコープ作成の道を開いた。現在は執筆活動を始め、さらなる占星の研究を重ねている。
ルネ・ヴァン・ダール研究所　http://www.rene-v.com/

魚座

あれもこれもやらなければと気負い過ぎてリズムを乱してしまいそう。できそうにないことは早めにお断りを

復興へ きずなの力
絆から希望を 行動から笑顔を
JAグループ 家の光協会

"Ienohikari"
家の光

5月号で
は創刊95周年

これからもJAと地域のみなさんの役に立つ
食と農の耳寄り情報をお届けしてまいります！

食と農
暮らし
協　同
家　族

いま
"知りたい"

暮らしの旬のテーマを取り上げます

創刊95周年記念 今年の5・9・12・1月号は、別冊付録2冊付き！

年6回は別冊付録付き

お申込みはコチラ　ＪＡびばい　営農推進課　ＴＥＬ ０１２６－６３－２１６５

家の光

定価(税込)　●普通月号 629円
●付録月号(1・4・5・7・9月号)922円
●家計簿付き 12月号 1,027円

JAグループ　家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町 11
TEL.03-3266-9039　http://www.ienohikari.net

ＪＡの概況

＜4月末＞

○皆さんの貯金	24，448，279千円
○皆さんへの貸出金	5，466，794千円
○皆さんの出資金	709，790千円
○組合員数	（正）789人 （准）3，712人 （計）4，501人

■お悔やみ申しあげます■

上美唄開拓
▼高橋キクエさん（百六歳）
四月十日死去

中村
▼佐藤友子さん（六十九歳）
四月二十九日死去

美唄市農協生活改善運動推進協議会

編集後記

5月の中旬、ＪＡびばい農場でアスパラの新植作業を行いました！

営農推進課の女性陣４名で約６００株のアスパラ苗を植えた結果…全身筋肉痛になりました！笑

作業している間は全然へっちゃら。疲れはしましたが、たくさん体動かして気持ちいいぐらいでした。がしかし、その日の夜から体に異変が。次の日には立つことも座ることもままならず、腕もあげられないほど全身激痛です。トイレに行くにもやっとの思いでした。泣

これに懲りずに１ヶ月後の除草作業も頑張ります！

JAびばい

令和２年　6/1(月)～7/31(金)

夏の定期貯金キャンペーン

◆募集商品

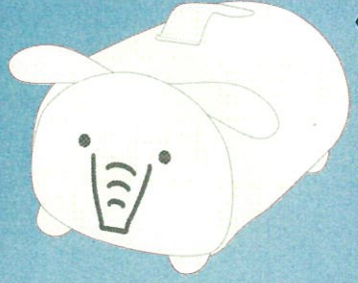
定期貯金

（１～５年 自動継続式）

特典１　１０万円以上の新規定期貯金には店頭金利に 0.02% 上乗せします。

特典２　『よりぞうランドリーバッグ』をプレゼントします。

※数に限りがございますので、あらかじめご了承ください。



《よりぞうランドリーバッグ》
洗濯物を入れた後、そのまま洗濯機に入れられるランドリーバッグです。クッション性があり、優しく洗える立体構造メッシュを使用しています。

お申し込み・お問い合せはコチラ
信用部 金融課　貯金係直通 TEL 63-2162

★キャンペーンのくわしい内容はＪＡびばい貯金窓口でご確認ください。